

氏名	神 野 高 光
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 4 5 号
学位授与の日付	昭和44年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	悪性腫瘍の異所性能に関する基礎的研究 第1編 悪性腫瘍組織ならびに腫瘍母組織の線維素溶解能に関する研究 第2編 悪性腫瘍組織ならびに腫瘍母組織の合成本質 TAmE 融解能および Casein 分解能に関する研究
論文審査委員	教授 田中早苗 教授 砂田輝武 教授 小川勝士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

標準平板 standard plate では胃癌、非癌部とも線溶能は高度で、癌化されたものではときとして非常に高度に streptokinase による活性を受けた。この結果は proactivator, activator の増量があるものと考えられる。また、上皮系組織に線溶能は高度である。

加熱平板 heated plate では胃癌の種類を問はず癌化されたものに線溶能は高度であり、streptokinase 添加の影響を受けないことから癌化されたものでは plasmin か、あるいは異質の protease 様物質の増量がうかがえられる。

加熱平板 heated plate でも上皮系組織に線溶は高度であり、この分解物質は消炎酵素剤、とくに trypsin 類似の物質であろう。

また、これらの結果より蛋白基質分解能と転移能力と原発細胞種属との三者の間に一定の関係があるものと推論する。 (第I編)

合成基質 TAmE 融解能も Casein 分解能も胃癌の種類を問はず癌部に強度である。上皮系組織にもっとも強度であり、これらも癌化することにより一般に強化される傾向にある。また、消化管のみならず乳癌でも強度の分解を示し、悪性甲状腺腫ではこれらの範疇でもっとも強度であった。

かかる分解物質は Plasmin か、異質の蛋白分解物質であろう。この結果は第1編同様蛋白基質分解能と転移性格と原発細胞種属との間に一定の関係あるものと推論する。 (第II編)

論文審査の結果の要旨

本研究は悪性腫瘍の転移に関する基礎的研究であるが、腫瘍細胞の異所性能を従来の物理力とは別個に、その線溶能より検索していったもので、その結果原発細胞程属と転移性格と蛋白基質分解能との間に一定の関係があることをみたもので、この方面の研究としては全く新しい分野の業積で価値あるものと認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。